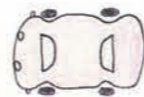




シェアエンガワ



コンセプト

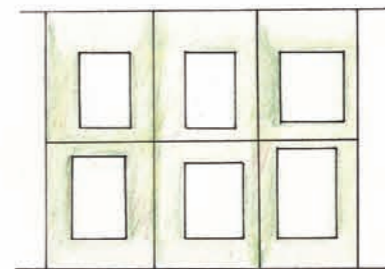
家と家との敷地スペースは、通常は庭や駐車スペースに使われており、プライバシーや採光、通風のために必要不可欠です。しかし、自分たちだけのための土地としての使い方がされず、住宅地にはパブリックスペースというものが存在していません。

これは家と家との間から住宅地を変え公共性のあるものへと変える提案です。

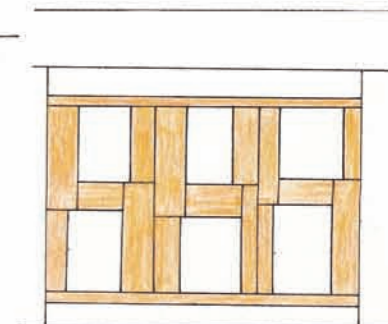
古くからある日本家屋の多くは「縁側」をもち、外の環境を内部空間にとりこみ、地域の人々とのコミュニケーションをとる場だったりしました。そこでは、近所同士の交流も盛んに行われ住宅そのものがパブリックスペースだったと考えられます。

そこで、家と家との間を空き地として設定し、そこにさまざまな高さの縁側をつくりだします。そうすることによって、「自分たちだけの土地」としての所有の意識が消え境界線がなくなります。

「みんなの縁側」は、自由に近所の人が行き来し近所同士のコミュニケーションが広がります。
お母さんが作りすぎた晩ご飯のカレーをお隣さんにおすそわけする
子供同士が走り回って遊ぶ
隣近所同士でバーベキューする
近所同士のおじいさんが仲良く囲碁をする
きっと、そんな光景が広がっていくかもしれません。



① 柵や塀で囲まれた閉鎖的な住宅地



② 家と家との間を空き地と設定し、空き地を埋めつくす縁側を計画する



③ 縁側の高さを変化させていく



④ 縁側をシェアすることで隣近所の人たちとのさまざまなコミュニケーションが生まれる

